

**1**

(1)

$$x^3 + 3x - 4 = 0$$

$$\Leftrightarrow (x-1)(x^2 + x + 4) = 0$$

$$\therefore x = 1, \frac{-1 \pm \sqrt{15}i}{2}$$

である。

$$(答) x = 1, \frac{-1 \pm \sqrt{15}i}{2}$$

(2)

$\alpha = \sqrt[3]{\sqrt{5}+2} - \sqrt[3]{\sqrt{5}-2}$  を代入して計算すると、

$$\begin{aligned} \alpha^3 + 3\alpha &= \left(\sqrt[3]{\sqrt{5}+2} - \sqrt[3]{\sqrt{5}-2}\right)^3 + 3\left(\sqrt[3]{\sqrt{5}+2} - \sqrt[3]{\sqrt{5}-2}\right) \\ &= (\sqrt{5}+2) - 3\sqrt[3]{(\sqrt{5}+2)^2(\sqrt{5}-2)} + 3\sqrt[3]{(\sqrt{5}+2)(\sqrt{5}-2)^2} - (\sqrt{5}-2) \\ &\quad + 3\left(\sqrt[3]{\sqrt{5}+2} - \sqrt[3]{\sqrt{5}-2}\right) \\ &= 4 - 3\sqrt[3]{\sqrt{5}+2} + 3\sqrt[3]{\sqrt{5}-2} + 3\left(\sqrt[3]{\sqrt{5}+2} - \sqrt[3]{\sqrt{5}-2}\right) \\ &= 4 \end{aligned}$$

となる。よって、 $\alpha^3 + 3\alpha$  は整数である。

(証明終)

(3)

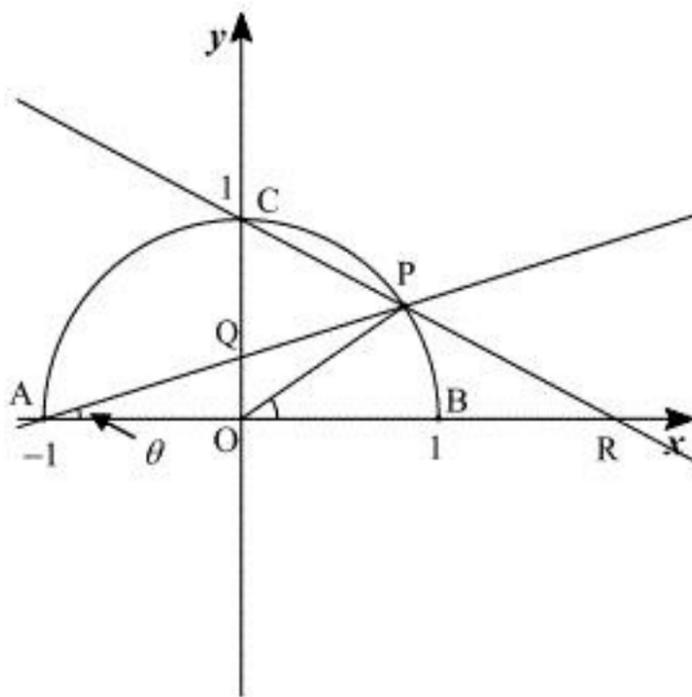
(2)より、

$$\alpha^3 + 3\alpha = 4 \Leftrightarrow \alpha^3 + 3\alpha - 4 = 0$$

であり、 $\alpha$  は  $x^3 + 3x - 4 = 0$  の解であることが分かる。 $\alpha$  は実数であるから、(1)より  $\alpha = 1$  であり、これは整数である。

(証明終)

(1)



円周角の定理より、 $\angle BOP = 2\angle OAQ = 2\theta$  であるから、点 P の座標は  $(\cos 2\theta, \sin 2\theta)$  と表せる。

ここで、点 P は第 1 象限にあるから、 $\theta$  の定義域は  $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$  となる。これより、

$$S_1 = \frac{1}{2} \cdot AB \cdot (\text{P の } y \text{ 座標}) = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \sin 2\theta = 2 \sin \theta \cos \theta$$

が得られる。また、O から AP におろした垂線の足を H とすると、 $AH = \cos \theta$  であるから、

$$AP = 2AH = 2 \cos \theta$$

であり、 $AC = \sqrt{2}$  である。さらに、

$$\angle PAC = \angle OAC - \angle OAQ = \frac{\pi}{4} - \theta$$

であるから、 $S_2$  は、

$$\begin{aligned} S_2 &= \frac{1}{2} \cdot AC \cdot AP \cdot \sin \angle PAC \\ &= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{2} \cdot 2 \cos \theta \cdot \sin \left( \frac{\pi}{4} - \theta \right) \\ &= \sqrt{2} \cos \theta \left( \frac{1}{\sqrt{2}} \cos \theta - \frac{1}{\sqrt{2}} \sin \theta \right) \\ &= \cos \theta (\cos \theta - \sin \theta) \end{aligned}$$

となる。

$$(\text{答}) S_1 = 2 \sin \theta \cos \theta, S_2 = \cos \theta (\cos \theta - \sin \theta)$$

(2)

$$\begin{aligned} S_1 &= 2S_2 \\ \Leftrightarrow 2 \cos \theta (\cos \theta - 2 \sin \theta) &= 0 \end{aligned}$$

であり、 $\cos \theta > 0$  であるから、 $S_1 = 2S_2$  となるのは

$$\cos \theta = 2 \sin \theta \Leftrightarrow \tan \theta = \frac{1}{2}$$

のときである。これより、

$$OQ = OA \tan \theta = \frac{1}{2}$$

と求められる。ここで、 $\angle APC$  は弧 AC に対する円周角であるから、 $\angle APC = \frac{\pi}{4}$  であり、

$$\angle PRA = \angle APC - \angle PAR = \frac{\pi}{4} - \theta$$

となるから、

$$\tan \angle PRA = \tan \left( \frac{\pi}{4} - \theta \right) = \frac{1 - \tan \theta}{1 + \tan \theta} = \frac{1}{3}$$

であり、

$$OR = \frac{OC}{\tan \theta} = 3$$

と求まる。

$$(\text{答}) OQ = \frac{1}{2}, OR = 3$$

(1)

条件  $f(-1)=1, f(1)=5$  より,

$$\begin{cases} -a+b-c+d=1 & \dots \textcircled{1} \\ a+b+c+d=5 & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

が成り立つ。よって、 $\textcircled{1}+\textcircled{2}$ より  $b+d=3$  が、 $\textcircled{1}-\textcircled{2}$ より  $a+c=2$  が得られるから、

$$f(x) = ax^3 + bx^2 + (2-a)x + 3-b$$

と表すことができる。このとき

$$\begin{aligned} \int_{-1}^1 f(x) dx &= 2 \int_0^1 (bx^2 + 3-b) dx \\ &= 2 \left[ \frac{b}{3} x^3 + (3-b)x \right]_0^1 \\ &= 2 \left( 3 - \frac{2}{3}b \right) \\ &= 6 - \frac{4}{3}b \end{aligned}$$

であり、 $\int_{-1}^1 f(x) dx = 8$  より、

$$6 - \frac{4}{3}b = 8 \Leftrightarrow b = -\frac{3}{2}$$

が得られる。よって、 $f(0) = 3 - b = \frac{9}{2}$  となる。(答)  $f(0) = \frac{9}{2}$ 

(2)

(1)より、

$$f(x) = ax^3 - \frac{3}{2}x^2 + (2-a)x + \frac{9}{2}$$

と表せて、

$$f'(x) = 3ax^2 - 3x + 2 - a$$

となる。 $f(x)$  が  $x=0$  で極値をとるには  $f'(0)=0$  が必要であるから、

$$2 - a = 0 \Leftrightarrow a = 2$$

となる。このとき、

$$f'(x) = 6x^2 - 3x = 6x \left( x - \frac{1}{2} \right)$$

であり、増減表は以下のようなになる。

$x$	...	0	...	$\frac{1}{2}$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	極大	↘	極小	↗

よって、確かに  $x=0$  で極値をとっている。このとき極小値は  $f\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{35}{8}$  である。(答) 極小値  $\frac{35}{8}$

(1)

$p+qi$  は  $s+ti$  を原点のまわりに  $-\frac{\pi}{4}$  だけ回転させた点であるから、

$$\begin{aligned} p+qi &= (s+ti) \left\{ \cos\left(-\frac{\pi}{4}\right) + i \sin\left(-\frac{\pi}{4}\right) \right\} \\ &= (s+ti) \left( \frac{1}{\sqrt{2}} - \frac{1}{\sqrt{2}}i \right) \\ &= \frac{s+t}{\sqrt{2}} + \frac{-s+t}{\sqrt{2}}i \end{aligned}$$

であるから、 $p = \frac{1}{\sqrt{2}}(s+t)$ ,  $q = \frac{1}{\sqrt{2}}(-s+t)$  となる。

$$(\text{答}) \quad p = \frac{1}{\sqrt{2}}(s+t), \quad q = \frac{1}{\sqrt{2}}(-s+t)$$

(2)

点  $p+qi$  が曲線  $C_0$  上にあるとすると、等式  $5p^2 + 5q^2 - 6pq = 8$  が成り立つ。これに

$p = \frac{1}{\sqrt{2}}(s+t)$ ,  $q = \frac{1}{\sqrt{2}}(-s+t)$  を代入すると、

$$\begin{aligned} &5 \left\{ \frac{1}{\sqrt{2}}(s+t) \right\}^2 + 5 \left\{ \frac{1}{\sqrt{2}}(-s+t) \right\}^2 - 6 \cdot \frac{1}{\sqrt{2}}(s+t) \cdot \frac{1}{\sqrt{2}}(-s+t) = 8 \\ \Leftrightarrow &\frac{5}{2}(s+t)^2 + \frac{5}{2}(-s+t)^2 - 3(-s^2+t^2) = 8 \\ \Leftrightarrow &8s^2 + 2t^2 = 8 \\ \Leftrightarrow &4s^2 + t^2 = 4 \end{aligned}$$

となる。このとき、点  $s+ti$  は点  $p+qi$  を原点のまわりに  $\frac{\pi}{4}$  だけ回転させた点であるから、点

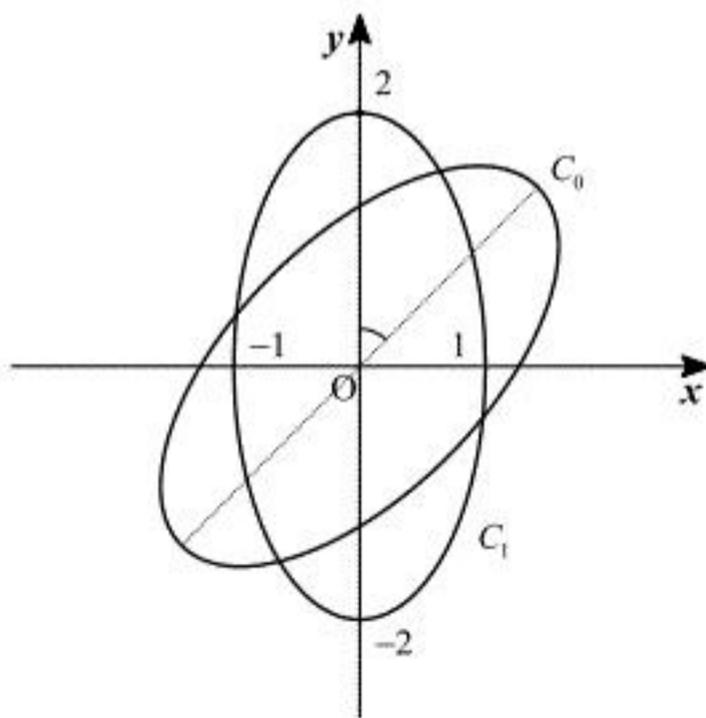
$s+ti$  は曲線  $C_1$  上の点となる。よって、曲線  $C_1$  の方程式は  $4x^2 + y^2 = 4$  である。ゆえに、

$$a=4, b=1, c=d=e=0$$

である。

$$(\text{答}) \quad a=4, b=1, c=d=e=0$$

(3)



曲線  $C_1$  上の点で原点からの距離が最大の点は、 $\pm 2i$  の 2 点である。これらを原点のまわりに

$-\frac{\pi}{4}$  だけ回転させた点が、曲線  $C_0$  上の点で原点からの距離が最大となる点となる。よって、

求める点は、

$$\pm 2i \left\{ \cos\left(-\frac{\pi}{4}\right) + i \sin\left(-\frac{\pi}{4}\right) \right\} = \pm 2i \left( \frac{1}{\sqrt{2}} - \frac{1}{\sqrt{2}}i \right) = \pm(\sqrt{2} + \sqrt{2}i)$$

となる。

$$(\text{答}) \quad \sqrt{2} + \sqrt{2}i, -\sqrt{2} - \sqrt{2}i$$

(1)

 $y$ 座標が1であるとき、

$$y=1 \Leftrightarrow \cos \theta=0$$

$$\therefore \theta = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi \quad (\because 0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

である。 $\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき、 $x = \frac{\pi}{2} - 1$ であり、 $\theta = \frac{3}{2}\pi$ のとき  $x = \frac{3}{2}\pi + 1$ である。点Pはこれらのう

ち、 $x$ 座標が大きい方であるから、 $\theta = \frac{3}{2}\pi$ である。したがって、点Pの座標は $\left(\frac{3}{2}\pi + 1, 1\right)$ である。

$$(\text{答}) P\left(\frac{3}{2}\pi + 1, 1\right)$$

(2)

 $\frac{dx}{d\theta} = 1 - \cos \theta$ ,  $\frac{dy}{d\theta} = \sin \theta$ であるから、

$$\begin{aligned} L &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \sqrt{(1 - \cos \theta)^2 + (\sin \theta)^2} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \sqrt{2 - 2\cos \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \sqrt{4\sin^2 \frac{\theta}{2}} d\theta \end{aligned}$$

である。 $0 \leq \theta \leq \frac{3}{2}\pi$ のとき、 $\sin \frac{\theta}{2} \geq 0$ であるから、

$$\begin{aligned} L &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \sqrt{4\sin^2 \frac{\theta}{2}} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} 2\sin \frac{\theta}{2} d\theta \\ &= \left[-4\cos \frac{\theta}{2}\right]_0^{\frac{3}{2}\pi} \\ &= -4\cos \frac{3}{4}\pi - (-4) \\ &= 4 + 2\sqrt{2} \end{aligned}$$

となる。

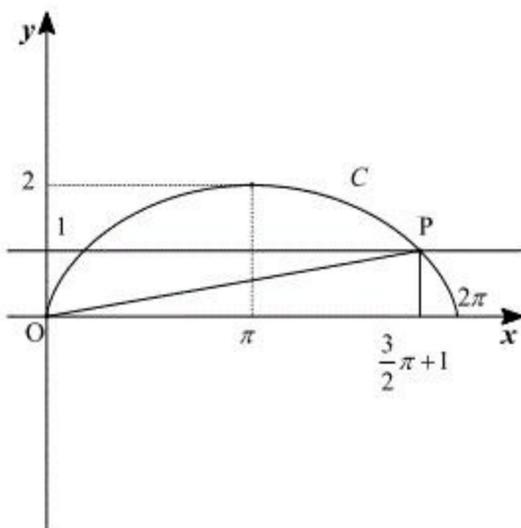
$$(\text{答}) L = 4 + 2\sqrt{2}$$

(3)

 $\frac{dx}{d\theta} = 1 - \cos \theta$ ,  $\frac{dy}{d\theta} = \sin \theta$ より、曲線Cの増減表は以下のようになる。

$\theta$	0	...	$\pi$	...	$2\pi$
$\frac{dx}{d\theta}$	0	+		+	0
$\frac{dy}{d\theta}$	0	+	0	-	0
$(x, y)$	(0, 0)	↗	$(\pi, 2)$	↘	$(2\pi, 0)$

これより、曲線Cを図示すると以下のようになる。



線分OPを $x$ 軸のまわりに1回転させてできる立体は、底面の半径1、高さ $\frac{3}{2}\pi + 1$ の円錐であるから、

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\frac{3}{2}\pi + 1} y^2 dx - \frac{1}{3} \cdot \pi \cdot 1^2 \cdot \left(\frac{3}{2}\pi + 1\right) \\ &= \pi \int_0^{\frac{3}{2}\pi + 1} (1 - \cos \theta)^2 dx - \left(\frac{1}{2}\pi^2 + \frac{1}{3}\pi\right) \end{aligned}$$

と表せる。 $x = \theta - \sin \theta$ として置換すると、 $dx = (1 - \cos \theta)d\theta$ であり、

$x$	0	→	$\frac{3}{2}\pi + 1$
$\theta$	0	→	$\frac{3}{2}\pi$

であるから、

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{3}{2}\pi + 1} (1 - \cos \theta)^2 dx &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} (1 - \cos \theta)^2 (1 - \cos \theta) d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} (1 - \cos \theta)^3 d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} (1 - 3\cos \theta + 3\cos^2 \theta - \cos^3 \theta) d\theta \end{aligned}$$

となる。半角の公式より、

$$\cos^2 \theta = \frac{1 + \cos 2\theta}{2}$$

であり、また、三倍角の公式より、

$$\cos 3\theta = 4\cos^3 \theta - 3\cos \theta \Leftrightarrow \cos^3 \theta = \frac{\cos 3\theta + 3\cos \theta}{4}$$

であるから、それぞれ代入すると、

$$\begin{aligned} &\int_0^{\frac{3}{2}\pi} (1 - 3\cos \theta + 3\cos^2 \theta - \cos^3 \theta) d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \left\{ 1 - 3\cos \theta + 3\left(\frac{1 + \cos 2\theta}{2}\right) - \frac{\cos 3\theta + 3\cos \theta}{4} \right\} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{3}{2}\pi} \left( \frac{5}{2} - \frac{15}{4}\cos \theta + \frac{3}{2}\cos 2\theta - \frac{1}{4}\cos 3\theta \right) d\theta \\ &= \left[ \frac{5}{2}\theta - \frac{15}{4}\sin \theta + \frac{3}{4}\sin 2\theta - \frac{1}{12}\sin 3\theta \right]_0^{\frac{3}{2}\pi} \\ &= \frac{15}{4}\pi + \frac{11}{3} \end{aligned}$$

と計算できる。よって、

$$V = \pi \left( \frac{15}{4}\pi + \frac{11}{3} \right) - \left( \frac{1}{2}\pi^2 + \frac{1}{3}\pi \right) = \frac{13}{4}\pi^2 + \frac{10}{3}\pi$$

である。

$$(\text{答}) V = \frac{13}{4}\pi^2 + \frac{10}{3}\pi$$